# 独立以来、過去最悪の経済状況から安定、回復へ

欧州、アメリカ、日本などの各国で新型コロナの感染者が広がる中、シンガポールでは政府による迅速で力強い措置が執られた結果、国内の市中感染者は一日当たり1-3名程度。海外からの外国人労働者、海外への留学生などが多いシンガポールらしく、ほとんどの感染は海外からの“輸入”という状況であり各感染経路は明確になっている。

シンガポールでは20年4月7日よりサーキット・ブレーカーという国内コロナ対策が行われていたが、年末の12月28日からフェーズ3の段階に入った。主には、レストランなどでの食事は8人までのグループで飲食が可能になった。(フェーズ2の5人から緩和された。)

引き続き6歳以上のすべての居住者にマスクの着用は義務付けられており、違反者は300ドル(約2万4千円)の罰金、さらにTrace Togetherと言うコロナ感染の追跡アプリのシンガポール全体での利用率は70%を超えており、市中感染が発生した際、シンガポール保健省は、感染者が30分以上訪れていた場所と、その場所にいた人がそれ以降2週間に訪れた場所のリストをウェブサイト（www.gov.sg）に掲載するという感染拡大防止策がとられている。

そのような対策もあってか、シンガポールの街中は今、人で溢れている。私自身10年間シンガポールに住んでいるが、主要道路の混み具合や、飲食店の席の占有率はこの10年で一番なのではないかと思う。もちろん、海外からシンガポールへの観光客はいないが、その分、在住邦人を含むシンガポール居住者の外への出国がない為、国内に滞在せざるを得ず、繁華街が賑わっている印象だ。

シンガポール貿易産業省が1月に発表した経済成長率の結果、20年GDPはマイナス5.8%の減少となったが、市場予想の6%程度よりは小幅な落ち込みになった。また、オーバーシー・チャイニーズ銀行の資金調査・戦略責任者セレナ・リン氏は、新型コロナワクチン接種が進み、昨年12月後半に制限がさらに緩和されたことに触れ、「シンガポール経済は、21年前半に安定化と足元を固める動きが続き、さらなる回復の兆しが生じると期待している」と述べた。

シンガポール保健省によると、すでに昨年末から医療従事者や老人介護施設の職員向けに開始されていたワクチン接種は、1月27日から高齢者向けに拡大され、当初の予定通り、第３四半期（７～９月）までにシンガポール国民や永住権保持者、居住外国人全員への接種に必要なワクチンを確保できるとみられている。

2月中旬の春節に向けて政府は感染拡大への警戒を強めている。しかし、約1年のコロナ禍を経て、主要企業でのデジタル化なども進んでおり、21年は感染を抑えながら経済は安定、好転していくものと思われる。

PRO-MATRIX PTE LTD　　長尾　真正